

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「マック、大阪でエコ実証店舗」
- 2) 「ボージョレ・ヌーボー ペットボトル入り、今年限り？」
- 3) 「クリスマスケーキ商戦 百貨店” ロールケーキ元年” 」

1) 「マック、大阪でエコ実証店舗」

日本マクドナルドは19日、大阪・キタの梅田茶屋町店を省エネ技術を駆使した「エコ店舗」に改装し、オープンした。改装前と比べ、CO2排出量が25%以上削減できる見込みという。

太陽光発電システムを導入し、さらにLED照明や廃熱の再利用装置などの省エネ機器も取り入れた。入り口のモニターには店舗の消費電力が表示されるほか、外光の明るさに合わせて自動で調光するようにも工夫した。同店を含め、大阪府内の4店舗（茶屋町店・枚方バイパス店・ビオルネ枚方店・1号線出屋敷店）で来年3月まで実証実験を行い、効果などが確認できれば他地域の店舗でも活用していく方針だ。

エコ店舗になるにあたり、店内のデザインもリニューアルして清潔なイメージになった。マクドナルドは、環境省の「2009年度チャレンジ25地域づくり事業」を実施する大阪府との共同事業者に選定されており、外食産業では唯一の企業となるため、他社にも良い影響を与えるような取り組みを期待したい。

2) 「ボージョレ・ヌーボー ペットボトル入り、今年限り？」

手ごろな価格で販売が伸びており、18日に日本で解禁されたフランス産ワインの新酒「ボージョレ・ヌーボー」のペットボトル入り商品が、来年から姿を消す可能性が出てきた。フランスの民間生産者団体「ボージョレワイン委員会」は、ボージョレ産ワインをガラス瓶の使用に限定する法案作成を働きかけるとしているためだ。

同委員会のグザビエ・バルベ共同会長は18日東京都内で会見し、ガラス瓶詰めであることを「ボージョレ産ワイン」を名乗れる条件とする方針を明らかにした。来年6月に法令を運営する政府系機関に申請し「受理される見通し」という。同委員会は「ペットボトルはイメージや品質維持で問題がある」と指摘している。政府系機関の審査を通れば、来年にもペットボトル入りのボージョレが流通しなくなることになる。

普段それほどワインを飲まない人でも安価で手軽に購入できるペット入りボージョレーは、発売された当初「なるほど」と思ったが、現地の人にとれば「邪道」なのかもしれない。

何事においても、他国の文化をアレンジするということは悪いことではないと思うが、やはり伝統を傷つけるようなことは避けたいので、ペットボトル入りがなくなってしまうのも仕方ないだろうか。

3) 「クリスマスケーキ商戦 百貨店” ロールケーキ元年”」

クリスマスケーキ商戦でロールケーキが台頭している。昨秋のコンビニ販売で人気に火がつき、今年は初めてその流れを受けて、百貨店各社が企画を練った「ロールケーキ元年」だ。ロールケーキは、昨秋にローソンが販売した「プレミアムロールケーキ」が、1カ月で650万個を売るヒットとなり、広く認知された。

百貨店のクリスマス企画は夏ごろに始動するため、今年が認知後に初めて迎えるクリスマスとなる。

大丸松坂屋は、若い女性向けの特別プロジェクト「うふふガールズ」ブランドで、堂島ロールの「モンシュシュ」とのコラボケーキを企画した。10月20日から予約受け付けを開始したところ、用意した1400個がほぼ完売の状態となっている。

三越伊勢丹は、ロールケーキの一種で、海外のクリスマスケーキの定番「ブッシュ・ド・ノエル」を多数ラインアップ。その効果もあってか、予約数は今月18日までにケーキ全体で昨年比4%増と好調だ。「バリエーションは確実に増えている」と話すのはそごう・西武。16日の試食会ではショーウィンドーに多数のロールケーキを並べた。

インターネットの生活情報サイト「オールアバウト」でスイーツガイドを担当する下井美奈子さんは、「ロールケーキは有名なパティシエも作るようになり、正当なスイーツとして定着してきた」と分析している。

今年は半熟や半生などスイーツの話題に活気があった。コンビニやスーパーでも本格的な物が買えるようになって、節約に疲れた消費者の小さな贅沢として気軽に購入する事が出来るようになった。どんどん斬新なスイーツが出てきそうなので注目したい。